

2. 東北（地域別調査機関：公益財団法人東北活性化研究センター）

（－：回答が存在しない、＊：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連 (東北)	◎	衣料品専門店 (店長)	来客数の動き	・新型コロナウイルスによる自粛で仕事に行けなかった等々で動けなかった人たちが少しずつ動き始め、スーツ、礼服の購入に結び付いてきている。
	◎	住関連専門店 (経営者)	販売量の動き	・7月は新型コロナウイルス禍の中で来客数も売上もそこそこあった。当店では特別定額給付金で買物をする人も何人かみられた。
	◎	通信会社(営業 担当)	販売量の動き	・前年と比較して減少していた販売数が、今月は前年比110%となっている。
	◎	競艇場(職員)	来客数の動き	・3か月前は、新型コロナウイルスの影響で休業していた。
	◎	美容室(経営 者)	来客数の動き	・3か月前は新型コロナウイルスの真ただ中であつたため、客も警戒し敬遠されていた。今は制限が解除され、客も増えている。景気が良くなっているというよりは、環境が良くなっているということである。
	○	商店街(代表 者)	来客数の動き	・2～3か月前は新型コロナウイルスの影響を一番受け、商店街への来街者が激減した時期であつた。今月は商店街に買物客が戻りつつある。
	○	一般小売店[書 籍](経営者)	販売量の動き	・専門的な領域だが、六法全書の特装版が売れて普及版が売れないという状況からみて、客の購買意欲も相当改善されているようである。
	○	一般小売店 [酒](経営 者)	販売量の動き	・3か月前は最悪だったので、そのときに比べたら良くなっている。
	○	一般小売店[医 薬品](経営 者)	単価の動き	・3か月前は全く駄目であつたが、政府による特別定額給付金のお陰で皆さん懐が潤ったらしく客単価が上がっており、売上も少し良くなっている。
	○	一般小売店 [酒](経営 者)	販売量の動き	・ようやく売上が前年比で6割ほどに回復してきた。心配していたお中元も例年どおりの注文数と単価で企業、個人共に注文がきている。ただ、飲食店と観光関係の客に関してはまだまだ厳しい状況が続いている。少し回復傾向になったかと思うと感染者が出てしまうという歯がゆい状態が続いている。
	○	一般小売店[寝 具](経営者)	販売量の動き	・給付金の影響は当店においては思ったほどない。
	○	百貨店(売場主 任)	販売量の動き	・4月の営業短縮や臨時休業を実施した状況に比べれば販売量、来客数等は改善しているが、まだまだ完全には戻っていない。
	○	百貨店(買付担 当)	お客様の様子	・新型コロナウイルスの状況が落ち着いていたこともあり、来客数は幾分回復してきている。しかし、気分転換の外出も多く、購買動向は決して良くなってはいない。
	○	百貨店(経営 者)	販売量の動き	・新型コロナウイルス禍の短縮時間営業時に比べれば戻りつつあるものの、自粛営業再開後の活発な動きはなくなった。高額商品のみ好調で全体数字を引き上げている。
	○	コンビニ(経営 者)	来客数の動き	・緊急事態宣言が出された頃よりは多少回復しているが、前年の100%まではまだまだ遠い。複数経営しているが、ほぼ全店で前年割れである。特にホテル下やオフィス街の店舗はいまだ壊滅的な売上となっている。
	○	衣料品専門店 (経営者)	お客様の様子	・購買客数アップを期待してのセールスタートであつたが、大きな動きはなく来客数は微増である。
	○	衣料品専門店 (店長)	お客様の様子	・新型コロナウイルス第1波ピークの頃に比べれば消費者の買物意欲は戻りつつあるが、給付金特需が落ち着きつつあるなか、再び慎重な買物行動をとる方が増えてきているのが来客数に表れている。
○	衣料品専門店 (総務担当)	販売量の動き	・新型コロナウイルスの影響で来客数、買上点数が落ちていたが、徐々に買上点数が上がってきている。	
○	乗用車販売店 (従業員)	来客数の動き	・客の滞在時間が伸び、じっくりと商談がしやすくなってきている。受注量も僅かだが上向ってきている。	

○	乗用車販売店 (本部)	販売量の動き	・新規来客数は前年比70%と改善傾向にある。連動して販売台数、収益も若干であるが上向きになってきている。
○	その他専門店 [靴] (従業員)	販売量の動き	・長い梅雨で、長靴の売行きが良い。結婚披露宴やパーティ等のイベントの自粛で紳士革靴やパンプス等の需要がほとんどない。
○	その他専門店 [ガソリンスタンド] (営業担当)	販売量の動き	・前年の販売量と比較すると減少しているものの、緊急事態宣言中と比較すれば改善している。
○	高級レストラン (スタッフ)	来客数の動き	・ランチの来客数が伸びてきている。前年に対して80%で推移している。
○	一般レストラン (経営者)	来客数の動き	・最近、週末を中心に客が少し来るようになってきている。恐らく新型コロナウイルスによる外出自粛の反動で来るようになったのだと思うが、ランチタイムだけに限った状況である。ディナータイムについては依然として客はほとんどいない状況が続いている。
○	観光型旅館 (経営者)	来客数の動き	・自粛解除から少しずつ動きが多くなってきて、今月は平常に近いくらいの稼働である。
○	観光型旅館 (スタッフ)	販売量の動き	・今月上旬は県主体の県民限定キャンペーン、下旬はGo To Travelキャンペーンが始まり、予約の件数は増えてきている。
○	旅行代理店 (従業員)	販売量の動き	・県民限定宿泊支援策に加え、Go To Travelキャンペーンがスタートし、旅行に行こうという外的な環境が徐々に形成されつつある。さらに、新型コロナウイルスが沈静化し東京が除外地域から解除されれば、更に需要が高まる。
○	旅行代理店 (従業員)	お客様の様子	・会社全体の数字と比較したら微々たるプラス要素ではあるが、県民宿泊プランが東北各県で始まった効果で、関わりがある県での需要が多少出てきている。
○	通信会社 (営業担当)	お客様の様子	・自宅で過ごす時間が多くなり、新しい生活様式が定着したため、テレビに接する時間が増え、映画鑑賞やネットでの動画配信を楽しむ時間が増えている。このため、新規加入者はそれほど増えていないものの、解約者が大幅に減少しているため、全体的に加入者総数は増加している。
○	通信会社 (営業担当)	来客数の動き	・3か月前より来客数が多くなってきている。
○	その他サービス [自動車整備業] (経営者)	来客数の動き	・以前よりはにぎわいを回復してきている。来客数、売上共に前年同期に比べて70%ほどに回復している。
□	一般小売店 [カメラ] (店長)	来客数の動き	・来客数は徐々に回復してきているものの、まだまだ売上確保が厳しい状況が続いている。
□	百貨店 (営業担当)	来客数の動き	・来客数に大きな変化がみられない。
□	スーパー (店長)	販売量の動き	・5月頃のような大きな影響はないが、前年より約5%伸びている状態が続いている。
□	スーパー (営業担当)	単価の動き	・人の動きが活発になってきたが、来店頻度が上がらないなか、客単価が110%、買上点数が高いまま推移していることから、まとめ買い需要が続いている。新型コロナウイルスに対する警戒感は強いままであり、景気が上向いているとはいえない。
□	コンビニ (経営者)	来客数の動き	・客足が戻っておらず、来客数は前年比で64%、前月比では97%となっている。フリーの客足が戻らないのが大きな要因である。
□	コンビニ (経営者)	来客数の動き	・梅雨の影響で気温の上がらない日が続き、麺類、ソフトドリンク、アイスクリームの売上が厳しい。
□	コンビニ (経営者)	来客数の動き	・新型コロナウイルスの影響で来客数の減少が大きい。
□	乗用車販売店 (従業員)	販売量の動き	・個人客では、新型車が出たら購入すると言っていたにもかかわらず、車検を取ったり、そのまま乗り続けたりしている客が見受けられる。
□	乗用車販売店 (従業員)	お客様の様子	・新規客の来場件数は5月に比べると伸びているが前年比70%であるため、販売台数は前年と比べ42%減少している。

□	住関連専門店 (経営者)	販売量の動き	・受注量は減少したままで、新規の受注が取れていないため変わらない。
□	その他専門店 [ガソリンスタンド] (営業担当)	販売量の動き	・新型コロナウイルスの影響でまだ自粛しているのか、数量的な伸びはない。
□	その他小売 [ショッピングセンター] (統括)	お客様の様子	・6月の経済活動再開後、多少客の動きがみられるものの、新型コロナウイルスに対する不安感で消費のマインドは以前と余り変わっていない。
□	一般レストラン (経営者)	それ以外	・緊急事態宣言解除後から少しずつではあるが良くなってきた。ただ、市内での新型コロナウイルス感染症のクラスター発生以降、予約のキャンセルが相次いでおり、予断を許さない状態である。
□	旅行代理店 (従業員)	お客様の様子	・国内旅行需要においては個人宿泊予約がGo To Travelキャンペーンや県民割を利用しての予約は増加傾向にある。団体においてはGo To Travelキャンペーンがスタートしてもまだ未発生の状態である。今後の新型コロナウイルス感染拡大がやはり懸念されている。海外旅行需要は渡航禁止措置の影響により受注ゼロ状態が継続している。
□	タクシー運転手	お客様の様子	・雨が続けているが乗車回数が増えることもない。むしろ、晴天時の方が人の動きがあり売上が伸びている。緊急事態宣言以降、外出が遠のいている様子がうかがえる。
□	通信会社 (営業担当)	お客様の様子	・新型コロナウイルスが終息していないため状況は変わらない。
□	観光名所 (職員)	来客数の動き	・土日のみの営業から平日も営業、定期便の減便から少しずつ増便と、徐々に日常に戻りつつはあるが客は戻っていない。会社存続のため、営業しているが最小限の損益にて何とか保っている状態である。まだ景気を判断できるほどの客足の戻りはない。
□	その他住宅 [リフォーム] (従業員)	販売量の動き	・特別定額給付金の特需効果が出ている。住宅設備機器ではエアコン、給湯器、コンロなどの交換が急増しており、リフォームでは屋根外壁塗装工事やハウスクリーニングの問合せが増えている。
▲	商店街 (代表者)	来客数の動き	・前月に引き続き7月も現状は大変悪く、期待もできないし希望もない。新型コロナウイルス感染症の影響や地元の人が新型コロナウイルスに感染したという報道、この先のねぶた祭の中止等、商業者の心の中は喪失感で一杯である。
▲	商店街 (代表者)	来客数の動き	・夏の祭りが全部中止になり消費行動がストップしている。
▲	商店街 (代表者)	それ以外	・新型コロナウイルスの第2波の影響を懸念している。
▲	一般小売店 [医薬品] (経営者)	販売量の動き	・全体の売上は107~108%で推移しているが、中身をみると医薬品、化粧品などは前年を割っている状況になるので、本来の形からすると良くないように見受けられる。
▲	一般小売店 [医薬品] (経営者)	来客数の動き	・客単価がやや上がっているが、これは新型コロナウイルスの影響で健康に対する不安が高まっているためとみられる。一方、来客数は確実に落ちている。特に、現役世代の客数が落ちているようである。全体としてやや悪くなっている。
▲	スーパー (経営者)	単価の動き	・7月の1品単価前年比は、天候不順による生鮮食料品の一部価格高騰もあり4%強の高さで推移している。ただ、自粛要請解除やGo To Travelキャンペーン、地方自治体による給付金等の支援もあったので消費拡大を期待したが、新型コロナウイルス感染症が更に拡大したため、来客数も買上点数も前年割れが続いている。食品の売上高の推移もやや落ち着き、地場産業、観光事業などは軒並み悪く、消費環境は依然として良くない傾向にある。

▲	スーパー（経営者）	来客数の動き	・低価格に敏感になってきているせいか、チラシなしの日とチラシが入った日、また通常ポイントの日と10倍セールの日で来客数の差が大きくなってきている。
▲	スーパー（店長）	販売量の動き	・3か月前の家庭内食需要による新型コロナウイルス特需は落ち着き、客単価が通常に戻りつつある。
▲	スーパー（営業担当）	来客数の動き	・新型コロナウイルス禍で買い置きの傾向も下降気味になっている。また、特売、クーポン時に買物が集中しふだんの来客数が減少しているため、来客数が前年を割り込んでいる。
▲	コンビニ（経営者）	来客数の動き	・新型コロナウイルスの影響で会社の業績が悪くなり、週に1～2日しか出勤がないという人が増えてきている。
▲	コンビニ（経営者）	来客数の動き	・新型コロナウイルスによる自粛規制後、客足が戻っていない。
▲	コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・来客数は前年比88%と厳しい状況で、6月よりも2%ダウンしている。キャッシュレス還元終了やレジ袋有料化が向かい風となっている。
▲	コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・春と比較しても新型コロナウイルス禍の影響やイベント、祭り需要の大幅減が来客数減につながっている状況である。
▲	衣料品専門店（経営者）	お客様の様子	・竿燈（かんとう）の中止や各種イベントの中止で売上が激減している。特に竿燈用品の売上減が顕著で平年の100%減に近い。お中元も個人客の来店が激減している。
▲	衣料品専門店（経営者）	来客数の動き	・当地域では新型コロナウイルス感染者が出ていないため、逆に神経質になっていることと、観光などの目的がないため洋服を買う気持ちになりにくいことがあるようである。
▲	衣料品専門店（店長）	来客数の動き	・新型コロナウイルスの第2波がマスコミで騒がれていることが、来客数の減少傾向につながっている。
▲	家電量販店（従業員）	販売量の動き	・給付金特需があったがそれもどんどん落ち着いてきている状況で、少しずつ悪化してきている。
▲	住関連専門店（経営者）	販売量の動き	・新型コロナウイルスによって店が閉まっているところがある。本当に回復するまでには時間が掛かる。
▲	観光型ホテル（経営者）	来客数の動き	・6月下旬から営業再開し、今月は23日からの4連休などがあり休前日は満室になるが、平日は前年比3割ほどである。
▲	タクシー運転手	来客数の動き	・タクシーの仕事をしていて核となる店舗があるが、そこに入店する客の数が一向に伸びない。新型コロナウイルスで厳しくなったときと余り変わっていないというのが実情である。
▲	通信会社（営業担当）	お客様の様子	・客の設備投資意欲がより悪い方向に向かっているように見受けられる。
▲	通信会社（営業担当）	お客様の様子	・新型コロナウイルスの影響で厳しい。
▲	遊園地（経営者）	来客数の動き	・新型コロナウイルスに加えて梅雨が長引いており、4連休も低調で前年の7割にとどまっている。
▲	住宅販売会社（経営者）	販売量の動き	・契約直前の物件キャンセルが増えている。
▲	その他住宅投資の動向を把握できる者（住宅展示場運営会社）	来客数の動き	・梅雨や新型コロナウイルス感染拡大の影響などで来場が鈍化しており、前年比7割で推移している。
×	スーパー（経営者）	お客様の様子	・新型コロナウイルス感染者が当市に滞在し会食等をしたという報道がされたことにより、市民の消費又は外出に対する意欲が減っている。
×	コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・新型コロナウイルスの影響により、オフィス街、繁華街、夜間の売上が大幅に減少している。6月の経済活動再開で持ち直したが7月に入り、感染者の増加による外出自粛や在宅勤務等により人の動きが大幅に制限されており、来客数の大幅減少が発生している。加えて天候不順も人の動きを悪くしている。

	×	コンビニ（店長）	来客数の動き	・7月の東京での感染者の増大や、本市でも感染者がぼちぼち出てきたこともあって特に深夜帯の外出が控えられており、4月と同じような雰囲気になってきている。そして、アルバイトを解雇されたりして収入がなくなった人が増えており、ここに来て買物ができない方が増えてきたなという印象を受ける。
	×	その他専門店〔酒〕（経営者）	販売量の動き	・6月は緊急事態宣言明けで商品が動いたのでかなり商品の送り込みを行ったが、前年売上には届かなかった。その影響に加え、7月は3～5月ほどではないが徐々に景況の悪化が深刻になってきている。
	×	その他専門店〔白衣・ユニフォーム〕（営業担当）	販売量の動き	・梅雨が明けずに暑さが来ないため、夏物商材の動きが非常に良くない。また夏場のイベント、祭りが全て中止となりこれまで受注していたTシャツやポロシャツの注文が全くない。飲食店自体が厳しいなかで、制服までの注文は望むべくもない状況である。ただし、冷感マスクやフェイスシールド、エチケットマスク等の今までなかった商材が動いてきている。
	×	高級レストラン（経営者）	競争相手の様子	・新型コロナウイルスの第2波が来て大分キャンセルが出ている。少し良くなりつつあるかなと思っていたが、残念ながらそうはいかなかった。
	×	一般レストラン（経営者）	それ以外	・6月は幾らか戻ったが、7月になって本地区で新型コロナウイルス感染者が発生し、客は敏感で7月はかなり落ち込んでいる。
	×	一般レストラン（経営者）	お客様の様子	・月初めに市内で初めての新型コロナウイルス感染者が出ている。その影響が大きくて、外食する人が激減し、予約のキャンセルも出ている。徐々に店内での食事に客が戻ってきいていたのが振出しに戻ってしまった。Go To Travelキャンペーンも1000円の食事枠の利用は夜の店は皆無のようで、昼に地元の名物でもある蕎麦屋に流れが多少ある程度でパッとしない。
	×	通信会社（営業担当）	それ以外	・周辺から聞こえてくる新型コロナウイルスの影響による企業倒産、雇用悪化の声は前月より多くなっている。また、消費も控える向きが多く利益が確保できないという話も聞こえてくる。景気が悪くなっているのを肌で感じたのはリーマンショック以来である。3か月前より数段悪い。
	×	通信会社（営業担当）	販売量の動き	・新型コロナウイルス禍の影響で特に飲食店は大打撃を受けており、閉店に追い込まれている店が散見される。3か月前と比べてかなり悪くなっている。
	×	設計事務所（経営者）	競争相手の様子	・新型コロナウイルス第2波への警戒感から、非常に動きが鈍い。また、先のみえない不安感からか、消極的な話を多く聞く。
企業 動向 関連 (東北)	◎	広告代理店（経営者）	受注量や販売量の動き	・7月に入りようやく発注量が戻ってきている。ただし、前年の80%程度である。相変わらず中止になったイベントはそのままで、代替案が見つからない状況である。
	○	農林水産業（従業者）	受注価格や販売価格の動き	・新型コロナウイルス感染症により景気は低迷しているが、JAより、早生種のももの販売単価が例年並みである旨の説明があった。
	○	食料品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・緊急事態宣言が解除され、売上は3か月前よりは上向きであるが、前年同月比では50～60%である。
	○	金融業（広報担当）	取引先の様子	・緊急事態宣言解除以降、小売、飲食への客足の回復が緩やかながらみられる。地場農産品は他産地の天候不順等の要因もあり、単価は相応の水準で高止まっている。
	○	その他非製造業〔食料品卸売業〕（経営者）	受注量や販売量の動き	・4月に比べればまだ良いのだが、6月からの回復傾向が7月中旬以降の新型コロナウイルス感染者の増加で再び悪化傾向に変化しており、楽観視はしていない。
	○	その他企業〔企画業〕（経営者）	取引先の様子	・新型コロナウイルスの感染者の多くは大都市やその周辺地域なので、当地域ではやや安心感がみられる。また、緊急事態宣言の解除もあって買物行動に活気が出てきている。

□	食料品製造業 (経営者)	受注量や販売量の動き	・7月に入り人の動きが出てきて土産も少し動くようになったが、まだ駅の売店は前年の半分である。郊外店やスーパーテナント店は前年に近い売上に回復している。お中元商品が売れているので発送件数は前年並みであり、トータル売上は8割程度である。
□	食料品製造業 (営業担当)	受注量や販売量の動き	・販売量の前年割れが続いており、景気の悪い状態が続いている。
□	出版・印刷・同 関連産業(経営 者)	受注量や販売量の動き	・イベントの中止、学校行事の中止等に伴う受注減少、広告収入の減少が顕著になっている。
□	出版・印刷・同 関連産業(経 理担当)	受注量や販売量の動き	・6月は売上が前年比90%まで一時的に回復したが、7月は4月同様、前年同月比80%の売上となっている。
□	電気機械器具製 造業(企画担 当)	受注量や販売量の動き	・新型コロナウイルスの影響は、プラス、マイナス面が共にあり、受注量、販売量の動きはトータル的に大きな変化がない状況である。
□	建設業(従 業員)	受注量や販売量の動き	・近々見込まれる案件はあるものの、現状は低水準で推移している。
□	通信業(営業担 当)	取引先の様子	・回復の兆しは見えてきた感はあるが、まだ対面での営業は厳しいものがある。
□	広告業協会(役 員)	受注量や販売量の動き	・新型コロナウイルス感染の再燃により、やや戻ってきた広告出稿に、再び陰りが見え始めてきている。さらに、今月は天候不順で季節性のあるプロモーションが打ち出しにくい状況である。
□	広告代理店(経 営者)	受注量や販売量の動き	・新型コロナウイルス禍により売上が前年比60~70%の状況が続いており、悪い意味で変わらない。
□	経営コンサル タント	それ以外	・Go To Travelキャンペーンが腰砕け状態となり、東北への経済効果は期待を大きく下回っている。
□	その他非製造業 [飲食料品卸 売業](経営者)	受注量や販売量の動き	・周りの人たちに買物の動向をよく聞いているのだが、買物をする回数は3回が2回になったり2回が1回になったり、新型コロナウイルス禍前よりも非常に少なくなったということである。購入商品の種類は多いが、買物金額は以前よりも落ちているという状況である。
▲	農林水産業(従 業者)	それ以外	・周囲の農家は、梅雨前の乾燥と梅雨の長雨により、果樹や野菜の品質が低下し収穫量も落ちており、売上減となっている。
▲	窯業・土石製品 製造業(役員)	受注量や販売量の動き	・公共工事が減少、民間工事でも大型物件が見当たらず、地域間格差はあるものの、全体としては低調な状況が続いている。
▲	金属製品製造業 (経営者)	受注量や販売量の動き	・カメラ業界は大きく落ち込んでおり、ここ1か月ほどで受注量は底を迎えるとみている。
▲	建設業(企画担 当)	取引先の様子	・新型コロナウイルス禍の影響で、客先の設備投資計画に延期や規模縮小、中止となる案件が散見される。
▲	金融業(営業担 当)	取引先の様子	・新型コロナウイルス感染拡大が収まらないなか、県内でも感染者が発生している。従来の生活様式にはなかなか戻れず、依然、ホテル、飲食、旅行業は先が見通せない状況が続いている。また、受注減から工場を閉鎖する企業も出てきている。
×	輸送業(経営 者)	受注量や販売量の動き	・6月の売上は前年比で10%減まで若干のばん回があったが、7月下旬になって、再度新型コロナウイルス感染者が全国的に増えており、その影響もあるのか7月の見通しはまた20%減に逆戻りとなっている。
×	公認会計士	取引先の様子	・客の月次、決算状況から判断している。今月は建設業関係の申告が多いが、前年比で売上増加あるいは現状維持くらいで落ちている企業が多く、前年比50%減の企業は少ない。逆に小売業、サービス業は大幅に落ち込んでおり、全体としては悪くなっている。
×	コピーサービス 業(従業員)	受注量や販売量の動き	・主力商品のIT機器が部品調達の遅れにより製品の入荷が滞り、受注しても納入できない状態が続いている。
雇用	◎	—	—

関連 (東北)	○	人材派遣会社 (社員)	求人数の動き	・ 求人減少数は変わらないが、求人増加数が2～3か月前と比較をして増加しているため、求人数全体の減少が徐々に落ち着いてきている。
	○	アウトソーシング企業 (社員)	それ以外	・ 3か月前は新型コロナウイルスの影響でことごとく会議が中止になり、余りにも酷かった。まだ例年並みには程遠いが、3か月前よりはましになっている。
	○	新聞社 [求人広告] (担当者)	求人数の動き	・ 経済活動の再開に伴い、金融、IT、通信を中心に6月よりは多少戻りつつあるが、求人数は前年比の6割半ばである。流通、サービス等の求人主要業種が全く動かず、厳しい状態は続いている。
	○	新聞社 [求人広告] (担当者)	周辺企業の様子	・ 厳しさは残るが、広告主からの問合せや発注が増え始めてきている。エリアをまたぐ人の動きの増加に呼応するように様々な業種が復調に向けた準備を進めている印象を受ける。
	○	職業安定所 (職員)	求人数の動き	・ 新規求人数は前年同期比で減少しているが3か月前と比べて減少幅が4割から2割台へと小さくなっている。
	○	職業安定所 (職員)	求人数の動き	・ 4月よりは求人数が増加している。
	□	人材派遣会社 (社員)	周辺企業の様子	・ 飲食や小売、専門商社、旅行等の代理店、旅館等の宿泊施設といった業界の企業が、軒並み来春の新卒採用をストップしている。
	□	職業安定所 (職員)	周辺企業の様子	・ 人手不足業種からの求人はあるものの正社員以外の割合が高まっており、観光や木材品製造といった地域の基幹産業の景況感は新型コロナウイルス関連により悪化している。
	□	職業安定所 (職員)	求人数の動き	・ 新規求人数の動きは今年3月以降の減少傾向に歯止めが掛かったが、これは一時的なものかもしれないため、現時点では3か月前と余り変わっていない。
	□	学校 [専門学校]	それ以外	・ 新型コロナウイルス感染症防止の影響から、景気状況はいまだ変わらず、低迷が続いている。
	▲	人材派遣会社 (社員)	求人数の動き	・ 第1四半期の受注数7割減から7月は5割減と若干踏みとどまっている。
	▲	人材派遣会社 (社員)	求人数の動き	・ 企業の依頼がなかなか増えてこない状況が続いている。
	▲	職業安定所 (職員)	求人数の動き	・ 新型コロナウイルスの影響で新規求人数が前年と比較して減少が続いている。
	×	人材派遣会社 (社員)	採用者数の動き	・ 改善傾向が見られない。求人数を含め、前年比50%以下の状況である。政府の政策が裏目に出ている気がしている。
	×	新聞社 [求人広告] (担当者)	それ以外	・ 新型コロナウイルス感染拡大の影響がある。